

## 平成28年度 第5回安曇野市図書館協議会 会議概要

1	審議会名	平成28年度 第5回安曇野市図書館協議会
2	日時	平成28年12月2日 午前10時から午前11時30分まで
3	会場	安曇野市豊科交流学習センター 学習室1
4	出席者	三澤会長、田村副会長、関委員、銭坂委員、山田委員、川名委員、福澤委員、樋口委員
5	市側出席者	高嶋図書館交流課長兼中央図書館長、青柳豊科図書館長、山越三郷図書館長、百瀬堀金図書館長、小笠原明科図書館長、細田課長補佐、奈良澤副主幹、沖副主幹
6	公開・非公開の別	公開
7	傍聴人	2人 記者 2人
8	会議概要作成年月日	平成28年12月22日

### ○会議の概要

- 1 開会 (高嶋課長)
- 2 あいさつ (三澤会長、高嶋課長)
- 3 協議・説明
  - (1) 第2次安曇野市図書館基本計画策定について
  - (2) 市民等アンケートについて
  - (3) その他

### ○協議概要

- (1) 第2次安曇野市図書館基本計画策定について  
細田課長補佐から説明。

委員・・質問ですが、「第2次総合計画」「生涯学習推進計画」は市が策定したものか。

事務局・市が策定したもので、市総合計画には、市の全ての事業が入っており、一番上位に属する計画です。この計画の中に生涯学習推進計画、図書館基本計画も掲げられています。第2次総合計画は平成29年度中に策定予定です。

委員・・それは文教だけでなく産業など、全てが入っているのか。

事務局・全て入っています。

委員・・第2次図書館基本計画の策定の工程表を示してほしいです。総合計画も見直しがされ、図書館基本計画との関連性もありますので、それを含めた工程表を示してほしいです。

事務局・前回の協議会資料に示してありますが、少し細かくて小さいので、もっと分かりやすい資料を作成します。

委員・・質問ですが、資料に、平成27年度の登録者数が39,189名で、安曇野市人口の約4割が登録されている計算になり、すごいと思います。さらに登録者数を増やすための検討資料として、年代層や男女別比も分かかりますか。

議長・・それに合わせて、登録者は市民なのか、市外の方もいるのか、また、貸出冊数は市民だけで計算しているのかも分かかりますか。

事務局・年代別登録者数は、分かれます。次回、お示しします。市民一人当たりの貸出数というのは、市人口を総貸出数で割ったものです。長野県立図書館で毎年「公共図書館概要」を発行し、県内全ての公共図書館のデータが出ています。

委員・・図書館のデータベースには登録者や地域なども登録されています。登録している人がどのくらいの頻度で、図書館に来て、どの図書を貸し出されたかデータとして残っていると思われます。例えば、過去5年間さかのぼり、こういった方にこういう本が貸し出されているといったデータを示してほしいです。それが資料の登録者数の伸びに対して貸出数が伸びていないという検証に使えんと思います。

事務局・できる範囲で資料の作成をします。

委員・・質問した意図は、そこを分析することによって、図書館利用が少ない年齢層の方に、図書館を多く利用

してもらおうための可能性が見えてくると思います。

議長・・登録者数ですが、過去からの累積になっていると方については除外していかないと、実質的に借りられない、借りない方も多くいると思います。実際と異なると思いますが、いかがでしょうか。

事務局・例えば、公共図書館概況をみると、松本市は12%、岡谷市は59%、塩尻市は75%となっています。そういう数値をみるとけして多くはないと思います。実際に登録者数を分析し、お示ししたいと思います。

堀金館長・各市で登録条件が違うため、一概には言えません。合併当初に利用がない方の洗い出しをしました。利用者カードも3年更新となっているので、その時点でデータの更新はしています。登録者は安曇野市民だけでなく、松本市など市外もいます。

委員・・登録されている方で、アクセスの問題もあり、来られない方もいると思います。アクセスの問題や、これからは電子化ということも図書館としてどう反映させていくのかを考えていくことが必要と考えます。第2次計画の中で検討していくことが必要かと思えます。図書館として電子化についてどう考えられているか、教えていただければと思います。

委員・・資料で「本市の地域性を踏まえた」というところを、客観性を持たせることによって取り組み方が違うと思います。いろいろな分析もできますし、メリットの根拠もでてくると思います。各地域を大事にしていくことが必要だと思います。もう一点、資料の「図書館法改正（H20）」ということが書いてありますが、この改正に基づいて進めていくのか。また、資料の「学校・家庭・地域等の連携の推進」とあるが、ここに「協働」「コラボレーション」「パートナーシップ」というような言葉が今後は入っていくのかなと感じます。

事務局・図書館法の改正ですが、委員がご存じのとおり、平成20年度に社会教育法の改正で「公民館の管理運営方針の策定と評価」という視点ははいつてきたと思います。それに合わせて図書館運営も大きく変わったと思います。また、これに伴い平成24年「図書館の設置及び運用上の望ましい基準」が掲げられ、安曇野市図書館もこの基準に沿って運営をしてきましたし、今後も進めていかなければならないと思っています。第2次計画についても、この基準が基本方針に当たるものと考えています。

委員・・昨年、何ヶ所か視察し、生涯学習というものをとても固く考えている図書館があったり、逆に地域の人の実態に合わせた生涯学習というような図書館があったりしたような気がします。例えば、ある村に行ったら、「私の生きがいはいいリンゴを作ることに夢中になっています。それが私の生きがいです」という方がいました。私が「そのために何をやっていますか」と聞いたら「近所で聞いたり、本を見たりしている」、それが「生涯学習」だと思います。図書館もそういった観点で蔵書をしていただきたいです。また、先ほど「連携」という話がありました。生涯学習課ともっと連携を図り、地域の人たちと接点をつなげていただければと思います。

委員・・結局、図書館に来る人というのは、ずーと来るだろうし、たくさん本が増えると喜ぶ人はたくさんいると思います。図書館に普段行かない人たちをどうやって図書館に向かわせるかということが、一番重点的にやらなければいけないと思います。やはり図書館もコミュニティの場といえますか、公民館的な要素にしていかないと、図書館はある特定の人たちだけが通う場になってしまうと思います。図書館は生涯学習ときっては離せないもので、常に一緒に行っていないと、新たな人たちを呼んで街の活性化につながっていかないと、思います。蔵書を増やすことはもちろんですが、コミュニティの場という公民館的な場所としての図書館を目指していければと思います。

委員・・なかなか市の施設に足を運ばないということで、やはりコラボレーションというか、協働したり、連携したり、来ていただくために何をしないといけないか、こんな良い施設があるんだと、こんなものがあるんだ、活用しよう、利用しようと、そういった場面設定は大事ななと思います。

委員・・老人や子どもは図書館に行くために足がなかったり、安曇野市は駅まで遠かったりしますので、バスを出して、とにかく図書館に行きやすくなったらいいなと思います。お金を投資して、図書館に行く機会を増やせればと思います。

委員・・私も安曇野と松本と塩尻の図書カードを持っています。今は選べる時代なので、どうやったら安曇野の図書館が選ばれて、市外の方もたくさん来て、本を借りていけるのかを考えればと思います。とくに、「みらい」は居心地がよくて、本を借りなくても来館されている方が多いかと思っています。できれば来館者数というものが分かるといいかなと思います。

事務局・明科・三郷以外は「来館者カウンター」が設置されています。

委員・先ほどからコミュニティとの連携という話がでています。まちづくり推進課が進める「くるりん広場」と連携できるように検討してほしいと思います。また、資料の「図書館の設置及び運営上の望ましい基準」のところで、「運営状況に関する評価の実施やその結果の住民への情報提供」とあります。一般的な評価として、図書館のパフォーマンスをどのように評価しているか話をしていただければと思います。また、「危機管理に関する規定」「データの電子化とその活用」について、図書館としてどう考えていくかが基本となると思われますので、第2次計画に含めていければと思います。

事務局・図書館のパフォーマンス資料ということですが、もう少し勉強をさせていただければと思います。基本的に資料の評価、内部の評価ですが、できるものはやっていきたいと思っています。

委員・各図書館、いろいろと評価していると思いますので、今やっていることが分かりやすく、利用者の状況が分かるようにしていただければと思います。

事務局・評価として2つあると思います。「業務評価」「リサーチ（アンケート）」、2種類の評価方法があると思います。

委員・先ほど、明科図書館の貸出冊数が減少した理由として「施設の老朽化」「人口の減少」などが関わっているという話でした。三郷、堀金、豊科、穂高はどんどん新しくなって貸出冊数など増加していくと思います。これからの明科図書館の将来像をどのように考えていますか。

事務局・そういったことを検討していただくのが、今回の計画となります。例えば、明科は児童館と併設している図書館なので、そういった特殊性を踏まえて考えていきたい、すぐに「こうです」とは言えないです。

明科館長・個人的にはデータ上では減っているようにみえますが、実際は大勢の方に利用されていると思っています。来館者が減少しているということですが、逆に20年度が大変多かったということも言えるのかなと思います。児童館が併設されているということもあり、最初の段階では児童館の子どもたちが、児童館の活動とセットで図書館を利用させていただく時間が多かったと思います。また、20年度の時点で他の図書館より明科の図書館が新しく充実していたと思います。そのため、多くの方が利用していただいたと思います。減ったと言えば減っていますが、明科に来ていただいた方が他の図書館へ移ったところが多いかなと思っています。7年前とはかなり状況が違うのかなと感じています。個人的な現状分析ですが、人数の割にはたくさん利用していただいていると思っています。

堀金館長・合併し、安曇野市になった時点で市内どこの図書館でも本が借りられるようになり、新しい明科図書館に行って本を借り、貸出冊数が伸びた時期は実際にありました。

委員・以前と比べ、明科は商店や官公庁が少なくなっています。状況が変わっていますので、数字ばかりではないような気がします。先ほど話を聞いて、明科図書館は健闘されていると思いますので、あまり数字だけで減った増えたとみるのはいかがかなと思います。図書館だけでなく、公民館の活動だったり様々な活動で、安曇野市のサークルや自主的な団体が活性化していけば、そういった会話になり、図書館も活性化していくのではないかと思います。

議長・数字がでてくると、それをみてしまいますが、必ずしもそれだけでないと思います。例えば、地域によって、三郷は支所と公民館と図書館が同じ敷地にあり、それは普通のことだと思っていますが、豊科や穂高は公民館と離れています。連携という話がありましたが、何となく全市同じことをしないとイケないと思われがちだが、それぞれの地域で、その特徴を生かしていくことがいいのではと思います。

事務局・計画策定の中で、分館の在り方についてもご協議いただければと思います。

委員・資料で中央館の団体貸出点数の目標設定が「28,000」というのは、ほかの4館合わせて「6,600」と比べても大きいと思います。どういう団体が借りるという想定であったのか、それとも、他地域から中央館へ借りにくるという想定があったのか。

事務局・当時、中央館という考え方があったと思います。蔵書も多いので、中央館から配本車を使って団体配本を想定しています。また、借りにきてくれる団体と、こちらから配る団体と両方兼ね備えていますので、中央館が数値的には大きくなります。

議長・このあたりで、ご理解いただいたということでもよろしいでしょうか。

## (2) 市民等アンケートについて

沖副主幹から説明。

- 委員・・・アンケート実施に伴い、回収率を上げることが大事だと思います。2つ理由があって「面倒くさい」「気が付かない」というのがあると思います。でっかい看板を出して目立つようにする。あとは、あまり押し付けない程度にカウンターに来られた方に声をかけるということをしたらどうかと思います。
- 委員・・・アンケートで「やや不満」「非常に不満」と答えた方に「どんなところが不満なのか」「こうゆうところをもっと良くしたほうがいい」などが書けると、いろんな意見をいただけるのではないかと思います。
- 事務局・問18で、記入欄がありますので、そこで書いていただければと思います。
- 委員・・・しかし、最後の記入欄は、全体的な意見でまとめた意見でなくてはいけないのかなと思ってしまいますので、全体的な意見よりは、個別の意見のほうが書くほうとしては、書きやすいかなと感じます。
- 事務局・できるだけ簡素にアンケートに答えていただけるよう、最後の自由意見欄にまとめさせていただきました。回収率を上げるため、市民アンケートに配布させていただいた方へ、お礼状のハガキを送付させていただき、その文面に「まだ回答されない方は期日までに提出していただく旨」の依頼を合わせてさせていただきます。
- 委員・・・一般市民の方には「児童生徒」は分かりにくいのではと思います。また、公共図書館という概念を市民の皆様がどのくらい理解しているか、分かりにくいのでは。問8の「よく利用する曜日は何曜日ですか」の間に「月曜日」が入っている。他は入っていないが整合を図ったほうがよいのではないかと。再度、見直しを。
- 事務局・・・整合が図れていないところは再度、見直しをしていきたいと思っています。
- 委員・・・先ほど委員が言われた「理由の記述欄」ですが、問いの欄に「最後の自由意見欄にお書きください」という欄を追加したらどうか。
- 議長・・・いただいたご意見を参考に事務局で見直ししていただいて、事務局にお任せでいかがでしょうか。
- 委員・・・アンケートの最後の自由意見欄内の「その他、ご希望やご意見・・・」とあるのは表現を柔らかくしたためか。
- 事務局・・・その通りです。
- 委員・・・回収率を高めるために、アンケートの目的がはっきり理解されないと高まっていけないのではと思います。例えば第1次の基本計画を置いておいて、利用者の皆さんに分かるようにしておけばいいのではと思います。
- 委員・・・例えば、「すばらしい図書館にするために」と書いておいて、「これは図書館の基本計画に盛り込まれ、教育委員会に上がっていきます」としておけばいいのではと思います。
- 委員・・・「図書館利用者アンケート」で、図書館にはいくつかの図書館ボランティアの団体が存在していますので、「そういったところに参加する希望はありますか」という問いかけができないと思います。狙いとしては、そういったボランティアさんが増えていけばという考えですが、ご検討いただければと思います。
- 事務局・「ボランティアを知っていますか」と「ボランティアの希望はありますか」という問いで検討します。
- 議長・・・いただいたご意見について、事務局で検討してまとめていただくようお願いいたします。アンケートはよろしいでしょうか。それでは、これで図書館協議会を閉じさせていただきます。